



# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.149



12月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2024年12月9日

## 「天災は忘れる間もなくやってくる」

副会長 浅野 一行

師走を迎え、この1年を振り返ると、インバウンド需要の拡大による観光業界の好景気やパリ五輪での日本選手団の活躍といった朗報にもまして、収まる気配すらない戦争や能登での震災・豪雨災害のような災いが常に傍にあり、気が休まらない1年だったのではないのでしょうか。気象状況も然り、異常な暑さで長かった夏がようやく終わったかと思えば、いきなりの冬将軍の到来。明らかにどこか狂ってしまった気候変動は、震災後の能登半島に、追い打ちをかけるような豪雨災害を引き起こしました。

上のタイトルは、内閣府の事前防災・複合災害ワーキンググループによる提言の表紙に掲げられていたものです。震災と豪雨など、災害が重なって起こる複合災害は、特に気候変動による気象災害の激甚化、頻発化により、地震に限らずあらゆる災害と重なって起こる可能性が高まっています。今後、我々は常に、「忘れる間もなくやってくる」複合災害に備える必要があるのです。また、能登では地震で緩んだ地盤への豪雨により、山肌が大規模な斜面崩壊を起こしたように、複合災害は個々の災害を足し合わせた以上の被害をもたらします。さらに、複合の組み合わせによっては、これまで予想だにできなかったことも起りえるでしょう。素人考えで恐縮ですが、富士山など火山災害において、噴石や灰で地中への浸透や排水機能が麻痺した都市に豪雨が来たら、などイメージすることも困難です。複合災害への備えは未知数である上に、災害復旧時に次の災害に備えるには、大きな意識改革も必要となるでしょう。

当協会の能登半島被災地復興支援委員会では、8月下旬に現地入りし、調査・ヒアリングを行いました。その1か月後、まさに報告書（「観光施設」黎明号にて報告）をまとめている最中に豪雨災害が発生しました。元日の震災から9か月に及ぶ復旧の努力はすべて泥で流され、さらにマイナスからの再スタートを強いられています。私は、個人的にも何かしなくては、という衝動にかられ、11月頭に能登でのボランティア活動に参加してきました。ヘルメット、防塵マスク、踏み抜き防止板入り長靴に身を固め、見てきた輪島・珠洲の状況は、2か月前の調査時とは一変しており、地形を変えてしまう程の複合災害の恐ろしさに立ちすくむ思いでした。

自然の脅威に立ち向かうことはできませんがこれまで乗り越えてきた幾多の災害の教訓を活かし、同時に複合災害のような未知の領域については具体的なイメージを共有し、事前に備えることで、その被害を最小化する努力はできます。首都直下や南海トラフなど必ずやってくる大規模地震に備え、今改めて、災害大国の知恵を文化としてまとめあげ、共有することが求められていると思います。

日本は現在多くのインバウンドに賑わっていますが、ひとたび災害が起これば、情報収集や意思伝達力に劣る彼らは、災害弱者となります。今後も、海外から益々多くの旅行者に来ていただくためには、日本は災害大国ではあるが、様々な努力によってそれを克服している安全な国である、というメッセージを伝え、そうあることが極めて重要に違いありません。

## HOTERES JAPAN 2025

ホテルズ実行委員会 委員長 末森 憲義

第53回 国際ホテル・レストラン・ショーは、令和7年2月4日（火）～7日（金）、東京ビッグサイト東展示棟にて開催されます。今回のHCJ（ホテルズを含む3展合同展示会の総称）のブース出展募集では、締め切りの9月末を過ぎても申し込みや問い合わせが続く盛況ぶりで、想定を大きく上回る出展者数が見込まれています。協会ブースの総合テーマは、「ホスピタリティのくに 日本を伝える」です。前回に続き、我々の研究成果を丁寧に、的確に伝えることの重要性に焦点をあてたものです。

今年は従来の研究成果を発表する9つの展示ブースに加えて、能登半島災害復興支援の展示とセミナーを行います。多くの人に能登の現状と復興に向けた取り組みを発信し、少しでも支援の輪を広げるきっかけになればと願っています。

また、協会ブースとホスピタリティデザインセミナーとその会場の壁面を飾るホテル・旅館・観光施設ライブラリーを合わせた3つを一体的に運営し、相乗効果でこれまでも増して賑やかな協会ブースにする予定です。また2月5日(水)にはサロン(会員間の交流の場)を開催致します。ワインとおつまみを提供しますので、フランクに交流できる絶好のチャンス、お誘いあわせの上是非ご参加ください。最後に、協会ブースへの参加申込みのお願いです。お済みでない方は、期限は既に過ぎてはおりますが、未だ受け付けておりますので、全員参加の協会 CSV 活動の主旨をご理解いただき、是非、お申し込みください。

## 「CSV 中間報告会+セミナー」の報告

建築部会 副部長 藤島 二郎

去る10月24日(木)千代田区の手門タワー・ENEOSビル「3×3 Lab Future」において『CSV 中間報告会+セミナー』が開催され、120名超の方が出席されました。

冒頭 鈴木会長からの「CSV 中間報告会」の趣旨説明のご挨拶に続き

(1)ホテル都市分科会(2)耐震研究会(3)フェーズフリー研究会(4)能登半島被災地復興支援委員会(5)エコ・小委員会(6)インテリア分科会(7)観光交流空間のまちづくり研究会(8)旅館観光地分科会(9)交流部会(10)ホテルズ実行委員会(11)事業委員会の11の各分科会長、委員長から報告が行われました。

報告会に続き久米設計 藤澤進社長が「久米設計における建築・まちづくりへの取り組み—これからとこれから—」とのテーマでセミナーに登壇されました。

藤澤社長から、まずは設計に携わった『東急歌舞伎町タワー』の紹介があり、日本を代表する繁華街・歌舞伎町にふさわしく、超高層ビルにも関わらずオフィスフロアの無い「エンターテインメントとホテルに特化したビル」というこれまでにない設計コンセプトの説明を頂きました。

また 創業者の久米権九郎の「建築は、その土地から生えたものでなければならない」という言葉を紹介し「その土地らしさや地域とのつながりを重視してきた」と振り返りながら、様々なプロジェクトに創業者の思想が根付いている説明として「軽井沢万平ホテル」「恵比寿ガーデンプレイス」「霞が関コモンゲート」などの著名プロジェクトの例を挙げながら“自然の地形を生かした配置の変化”、“その土地における(歴史等から)景観創出を重視した”という同社の設計の在り方を語られました。

加えて 近年は地域とのつながる活動に取り組んでおられることも紹介があり。本社のある江東区潮見において、地域の子どもや住民と取り組んでいる活動の紹介を通して「今後の社会に求められる組織設計事務所の在り方」の思いをお聞かせ頂きました。

セミナー後は藤澤社長と鈴木会長とのクロストークが開催され、会長からの「初期段階、あるいはもっと前の段階からの関与が設計事務所に新たなビジネスとして確立する必要がある」「川上の基本構想の段階が一番重要なことを考えている」との意見が出され、それを受けて藤澤社長から「設計業務は作業量で評価されるところがあるため、基本構想や計画は設計・監理の報酬より低くなりがちだ」「コンサルティ

ング的な領域にも手を広げていくことがこれからの設計事務所の活路となるのではないか」との提言があり、設計業務の将来像に思いを馳せるセミナーの締めとなりました。

## ホテル都市分科会

### 木づかい事例見学会開催

ホテル都市分科会 分科会長 野出木 貴夫

ホテル都市分科会では昨年度より「木づかい活動」の一環で木造・木質系建築の見学会を新・旧問わず見学の主旨を定めて開催しています。

今年度は9月12日にAQグループ本社ビルを企画しました。建物は住宅建設を中心に業績を伸ばす旧アキュラホームグループの大宮・新本社で、在来軸組構法で流通する木材を活用し、極力特殊な金物を用いずに工夫された純木造8階建ての業務ビルです。AQグループ技術開発本部の塚谷氏、建築設計担当の野沢正光建築工房の岩崎氏にご講演いただき、協会からは18名が参加しました。流通木材を活かし普及コストも意識した構法は広く観光交流空間にも活かしている好事例と思います。

続いて10月30日には清水建設様の協力を得て、潮見に竣工した温故創新の森NOVAREと旧渋沢邸の見学会を開催しました。午前・午後分けて20名を超える参加者が集まりました。NOVAREは新たなインベーションを産み出す場として5つの施設から構成される様々な木材の活用、木質化の工夫が展開されていました。また旧渋沢邸は築146年を経て2度の移築にも耐え、今年江東区指定有形文化財となっています。木造の移築性能に改めて感嘆させられました。

今年最後の見学会は、11月14日に木更津近郊のクルックフィールズを住友林業様のアレンジにて見学させていただきました。30hの広大な敷地に展開する各施設を午前、午後に渡りご案内頂きました。「農と食とアートと自然。いのちのてざわり」をコンセプトにしています。サスティナブルな循環型社会をめざした新たなリゾートであり共生体験施設といえましょう。参加者は15名となり、園内で取れた食材による美味しいランチを頂きながら交流も行えました。

ホテル都市分科会では、東京近郊も含めて木づかい事例の見学会を次年度も企画していきたいと思っております。どうぞご期待ください。

## ☆新入会員紹介☆

[正会員/製造業・販売業]

Harbour Outdoor Asia Ltd

(代表者)代表取締役社長 Paul Gerrard

(担当者) APAC Business Development Director

佐々木陽子

Suit 805, Horison Plaza, 2 Lee Wing Street

Ap Lei Chau, Hong Kong

TEL+852-2765-6128

営業内容: アウトドア、インドアファニチャーの製造  
メーカー



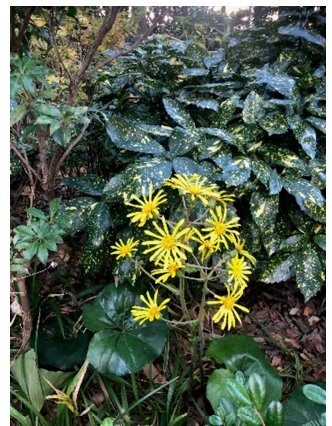
### 第118回国際観光施設協会 ゴルフ会(HOP会)の報告と次回予告

秋のゴルフ会が11月7日(木)に「狭山ゴルフ・クラブ」にて開催されました。当日は絶好の天気恵まれ、7組で競技が行われました。強風に苦戦しながらも、大激戦を制したのは、かいせいの秋山様でした。

参加企業の皆様からの協賛のお陰で、表彰パーティも大変盛り上がり、楽しい親睦の場となりました。次回も同じゴルフ場にて計画する予定です。

### ♥編集後記♥

今年の事業も全て順調に進み12月を迎え令和6年も終わろうとしています。新年度に向けて公益法人認定法の一部改正案が発表されました。その主な目的は「財務規律の柔軟化・明確化」にあることですが、そのための対応として「自律的なガバナンスの充実、透明性の向上」が求められています。施行期日は令和7年4月を予定されているとのことです。改正案に合わせた体制を整え、さらなる発展を目指して推進して参りたいと存じます。 Y. K



10月24日(木) CSV 中間報告会+セミナー